

タイトル：ファッションデザイン分野のアーカイブ中核拠点形成に関するシンポジウム

日時：2017年1月21日（土）13:00～15:00

場所：文化学園大学 C051 教室

参加者：一般来聴者含む 20 名ほど

活動内容

本学和装文化研究所（文化ファッション研究機構附置機関）では、武蔵野美術大学美術館・図書館、京都工芸繊維大学工芸資料館の2機関とともに、平成27年に文化庁委託業務「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」を受託し、28年度もこれを継続してきた。

本事業は、国内のデザイン分野資料の所蔵機関を繋ぐ連携を構築し、それら資料に関する情報を収集・整理しデジタルアーカイブ化することにより、活用のための基盤形成を行なうことを目的としている。デザインを専門とする博物館が存在しない我が国では、同分野資料の所在情報の把握は難しく、利活用も困難な状況にある。本事業は同資料を、ファッション・デザイン、プロダクト・デザイン、グラフィック・デザインの3分野に分け、それぞれに所蔵者間の連携を構築し、そこに集められた情報を集約して、デザイン資料の横断的な活用の促進と、デジタルアーカイブ化の普及啓発に取り組むこととなっている。

ファッション分野を請け負った和装文化研究所では、所蔵館との連携構築と各館データベースの現況調査、およびアーカイブ化手法の検討を進めた。また、アーカイブの充実には資料そのものの適切な維持管理が前提となることから、未だ広く知られていない個人所蔵資料の所在確認と調査を行ない、一部所蔵者には管理状況の改善に向けた支援を行なった。

本シンポジウムでは一年間の活動内容について3名の代表者が、「服飾資料所蔵施設に対する訪問調査の結果」、「横断的アーカイブ構築に向けた検討過程」、「服飾分野における未発掘資料調査の結果」について報告した。また報告終了後には、フロアの参加者とともに車座で腰を掛け、懇話会のかたちで意見交換を行なった。今後のアーカイブ手法の検討に向けて貴重な機会となった。

